



応募名称

パルシステム 100万人の食づくり・もったいないプロジェクト

会社名、事業場名

パルシステム生活協同組合連合会

東京都新宿区 / <https://sanchoku.pal-system.co.jp/>

■ 具体的な取組内容 ■

1. 事業の目的

- (1) 食料自給率の向上 (2) 食と農の距離を縮める (3) 実利用資源の有効活用 (4) 日本型食生活の推進

2. 主な事業内容

- (1) お米を中心とした日本型食生活の推進、耕作放棄地の有効活用
(2) 食品加工段階のロスの削減 (3) 耕畜連携、農商工消連携による地域資源の有効活用
(4) 組合員参加による商品開発 (5) 暮らしから食品ロスを削減（くらしの見直し活動）

3. 食品ロスを削減するための取組

消費者のレベルアップ!

- ① 消費者と生産者の距離を縮める。消費者は生産者のことを考えて消費する。
- ② 暮らし方、食べ方、購入の仕方をかえる。
- ③ 必要なものをムダなく購入し、使い切る。保存食、食材の使い切り術。
- ④ 家庭に届くまでの廃棄をへらす。食べられるのに捨てられる物を食卓に登場。

4. 主な取組

- (1) 耕作放棄地を活用し飼料米の生産。「日本のこめ豚、こめ鶏、こめ卵」の推進。
 - ・パン工場のパンくず等を飼料化する。「ぱん豚」の取組。
- (2) 「もったいない」をテーマとした組合員参加の商品開発。
規格外などで「食べることができるのに捨ててしまう」食品を商品化。
 - ・『茎の長めのブロッコリー』：群馬県の産直産地・野菜くらぶと提携して開発。
 - ・『冷凍さつまいもスティック』：規格外のさつまいもを商品化。
 - ・『九州の里芋』：冷凍野菜の加工メーカー「イシハラフーズ株式会社」とともに開発。
- (3) 自然災害などの被害果や余剰品の活用。
 - ・「ひょうりんど」ジュース
 - ・産直産地の余剰りんごを有効活用するために開発された『産直りんごのアップルパイ』。
- (4) くらしなおし
 - ・わたしの「もったいない宣言」
例：浴室にバケツを常備。途中の水も無駄にしません！浴室に35ℓのバケツをおき、シャワーを使うときに、お湯が出るまでの途中の水がもったいないので、そのバケツにためる。家族3人3日ほどで満杯に！水風呂ホースなどでくみ取って、洗濯するときに使います。日本中の人と同じことをしたらすく节水になりますね。
 - ・こどもたちに「お米の大切さ」を知ってもらう授業。小学校幼稚園の授業を実施。
- (5) 生物多様性プロジェクト
 - ・CO₂削減・フードマイレージプロジェクト、交流プロジェクト、耕畜連携プロジェクトとあわせて展開。



■ 評価 ■

規格外品等の商品化（ブロッコリー茎、規格外さつまいも、里芋の廃棄部）、簡易包装の推進、消費者が心がけている「もったいない」を募集し広める等、消費者を巻き込んだ多種多様な取組を展開している。取組の規模も大きく、その取組が消費者に受け入れられ継続している点等を評価した。